

## 春植え球根の植え付け



綾歌普及センター  
井口里香

二月は何かと慌ただしくなる季節です。園芸作業も春の暖かさとともに春まき草花の種まきや春植え球根の植え付け、宿根草の株分けなど大忙しです。

今月は春植え球根の植え付けについてお話しします。

### ●夏秋花壇の準備

冬の間、こたつの中であれこれ思い描いていた花壇が、この春、やっと出現します。次は、初夏から秋にかけての花壇づくりに向け、作業に取りかかりましょう。

### ●球根は花壇の主役

春植え球根は秋植え球根ほど種類は多くありませんが、夏の花らしくとも色鮮やかで、花壇では最も目を引く花となります。

主な春植え球根についての栽培のポイントは次のとおりです。

### グラジオラス

排水と日当たりが良ければ場所を選びません。しかし、花茎が長くなるので、花壇では他の草花の邪魔にならないよう配置を考えます。

花壇に腐葉土や基肥を施して、二〇cm以上の深さに耕します。植え付ける深さは球根の高さの三倍の土がかぶる程度で、株間は二二〜一五cmとします。肥料は開花までに二回と開花後二回程度施し、夏の高温時には敷きワラ等で乾燥を防止します。また、植え付け時期をずらすことで六月から十月ま

で花を楽しむことができます。

### ●開花後は

十一月の降霜期まで球根の肥大が行われるので花がらは早めに取り除き、切り花にする時は葉を四枚以上残して、球根の肥大を図るようにします。

植え付け時期をずらして花を長く楽しもう！

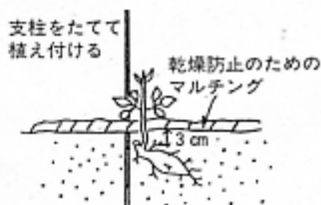
### ●グラジオラスの植えつけと開花期の目安

作 型	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
3月上旬植え			○	—	—	—	■					
4月上旬植え				○	—	—	■					
5月上旬植え					○	—	■					
6月上旬植え						○	—	■				
7月上旬植え							○	—	■			

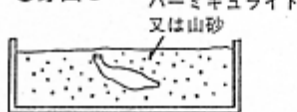
### ●ダリアの分球



### ●定植



### ●芽出し



に、大輪種で株間六〇cm、中・小輪種で四五cmで植え付けます。また、タネをまいて増やしても良いでしょう。

三月中下旬になると、球根の付け根にある芽が膨らんでくるので、この芽をつけたまま分球します。分球後、パーミキュライトや山砂などを詰めた箱の中に伏せ込んで芽出しをさせて、四月下旬までには定植します。排水、日当たり、風通しのよい有機質に富んだ土壌

放任すると株が込み合うので、開花終了後は二〜三節残して切り取り、高温多湿で株が衰弱して花が小さくなるころには思い切って株の切り戻しを行います。

ダリアは多肥を好むので基肥・追肥（七〜八月を除く毎月一回）

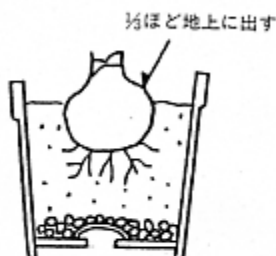
に化成肥料を与えます。

### アマリリス

日当たりの良い（夏期は強光を避ける）肥沃地を好みます。地植えにしてもかまわないですが、開花期が五、六月と長雨にかかること、根が過湿に弱いことなど、鉢植えにした方が何かと良いと思われま

れます。植え付けは、三月下旬から四月にかけて、球根よりひと回り大きい鉢に球根の上部ほど出して植え付けます。

### ●アマリリスの鉢植え



球根よりひと回り大きな鉢  
(径6cmの球根なら6~7号鉢)

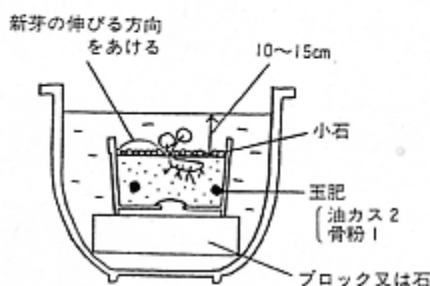
肥料は基肥と月一回の追肥として化成肥料を与えます。葉四枚で花芽が一個つくので葉が枯れ始め

る十一月まで葉数を多くもつ大球に育てましょう。

### スイレン

植え付けは、発芽し始める三月下旬から五月にかけてが適期です。粘土質に腐葉土三割と玉肥を入れた素焼き鉢に、新芽の伸びる方向をあげて植え付け、図のようにスイレン鉢に沈めます。

### ●スイレンの植え付け



良く日の当たる場所に置き、水温の上昇とともに水かさを増やし、水深を株元から一〇〜一五cmくらいに保ちます。月一回は玉肥を土中に埋め込みます。また、生育期間中は十日に一回くらいは、水を半分程度入れ替えます。

# 今が見ごろ

旬の花

正明 河江

# 猫柳

田の畦に、タンポポやレンゲの咲く頃、川のほとりで猫柳の花が咲き出します。

花卉がなく、おしべだけの地味な花ですが、花の少ない時期だけに、銀白色に輝く花穂が人目を引き、昔から茶花などの花材によく使われてきました。

「猫柳」の由来は、柔らかい毛に包まれた花穂が、猫の尻尾に似たり、子猫の姿を思わせるところからつけられたものですが、地方によっては、ヤナギ類の花穂を総称して「ねこ」と呼ぶそうです。しなやかな枝と、やさしい花穂から連想する花言葉は、「従順、思いのまま」。

花屋さんではいち早く、促成ものが売られています。一月くらい早く始めるなら自分でもできそうです。花瓶に挿した枝を、浴室など



暖かく、やや湿気を帯びた場所においてやると、一週間くらいで開花してきます。

ところで、川のほとりの猫柳の花は、よく見ると、みんな北の方角へ、少しだけ反りかえっています。早春のやわらかい日差しが、花穂の南側を暖めて、ほんの少し生長に差がでるためと言われます。こんなことも、アウトドアで楽しむお父さんには、ちょっと子供に自慢の種が増えたかもしれません。

猫柳今も煙の汽車通る 関義明